

## 第 15 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 3 月 20 日（月）  
18 時～19 時 00 分  
会場：オンライン  
（野沢北高校同窓会館）

### <次 第>

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 報告事項

- （1）第 14 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて
- （2）再編実施基本計画について
- （3）今後のスケジュールについて

#### 4 その他

第 16 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】 5 月中旬～6 月中旬 18 時～19 時 30 分

【会場】 未定

#### 5 閉 会

【視聴用 URL・二次元コード】

（小諸新校）<https://youtu.be/isBJ9fyNgFk>

（伊那新校）<https://youtu.be/gyWI1QRS9NA>

（小諸新校）

（伊那新校）



## 佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名	所属等
1	自治体	花里 英一	佐久市 副市長
2		吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
3		茅根 健司	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
4	産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
5		渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
6		白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
7	学識 経験者	堀内 ふき	佐久大学 学長
8	地域	廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
9		高橋 功	佐久地域振興局 局長
10	同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
11		中島 瑞枝	野沢南高等学校同窓会 会長
12	PTA	木内 良夫	野沢北高等学校PTA 会長
13		神津 かずみ	野沢南高等学校PTA 会長
14		竹内 由貴	全佐久PTA連合会 副会長
15	学校 関係者	鹿取 俊彦	佐久中学校長会 会長
16		森泉 雄二	佐久小学校長会 会長
17	再編 対象校	石井 勇多	野沢北高等学校 生徒会長
18		木内 夏乃	野沢北高等学校 生徒会副会長
19		寺澤 恵美	野沢北高等学校 生徒会副会長
20		金 棟鎬	野沢南高等学校 生徒会長
21		小林 笑奈	野沢南高等学校 生徒会副会長
22		佐藤 佳乃	野沢南高等学校 生徒会副会長
23		柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
24		山下 純一	野沢北高等学校 教諭
25		井出 豊彦	野沢南高等学校 校長
26		木下 照美	野沢南高等学校 教諭

### 事務局

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
石川 順三	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(教頭)・副事務局長	山岸 明	主幹指導主事
山下 純一		児平 修一		柳沢 勝美	主任指導主事 (佐久新校担当)
白石 克典		宮内 孝明			
神岡寿賀子		木下 照美			
清水 貴弘		山口 達之			

# 第14回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和4年(2022年)12月15日(木) 18時00分~19時38分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席(敬称略)	吉岡道明, 花里英一, 茅根健司, 渡辺 仁, 白鳥敬日瑚, 堀内ふき, 廣末恵子, 高橋 功, 吉岡 徹, 中島瑞枝, 木内良夫, 竹内由貴, 神津かずみ, 鹿取俊彦, 森泉雄二, 石井 勇多, 木内夏乃, 寺澤恵美, 金棟鎬, 小林笑奈, 柳沢敬, 山下純一, 井出豊彦, 木下照美 以上25名
傍聴者	13名(報道2社)
事務局	野沢北高校: 石川 教頭(事務局長), 白石教諭, 神岡教諭 野沢南高校: 橋爪 教頭(副事務局長), 小平教諭 県教育委員会: 宮澤推進室長, 塩川施設係主任, 斉藤施設係主事, 柳沢主任指導主事
当日資料	○次第, 第13回懇話会まとめ, 佐久新校の校地選定結果報告, 佐久新校学びのイメージ, 佐久新校(仮称)再編実施基本計画(案)と今後のスケジュール, NSDプロジェクト

## 会議事項

- (1) 第13回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 佐久新校の校地選定について
- (3) 新校の学びのイメージについて
- (4) 再編実施基本計画(案)について
- (5) NSDプロジェクトについて

## 主な内容(要旨) ⇒県教委 →事務局

### <校地選定について>

- ⇒前回の意見を踏まえた修正箇所を説明し、「甲乙つけがたい両校の校地であるが、新校で構想する学びを重視する観点で総合的に検討した結果、佐久新校は野沢北高校の校地校舎を活用すると判断した」と報告。
- 新校は大規模になるため、中込駅からの通学時の安全性については大きな課題である。  
⇒現状分析に加え、どうしたら安全が確保できるのか、幅広い見地から検討していきたい。
  - 校地はこれで正式な決定なのか。  
⇒その他の事項と合わせて新校再編実施基本計画(案)として県教育委員会定例会に諮り、正式な決定となる。
  - 南校の校地には学ぶ環境があり、北高の校地には拡張性という点で可能性を感じる。
  - 高層にせず、学びやすい環境作りの検討を要望。両校にとって良かったと思える新校を作っていただきたい。
  - ◎懇話会として「理解を示した」としてまとめる。

### <佐久新校の学びのイメージについて>

- ⇒プロジェクトチームから、これまでの懇話会の意見を踏まえたイメージの提案
- 高校生にとっては、授業以外の日常生活も大切。貴重な経験・体験を支えてくれるような新校作りを望む。
  - 学校外での活動など、様々な学びから自分の未来を思い描ける学校にできたらいい。
  - ユニバーサルデザインを取り入れて、幅広い学びができる場にして欲しい。
  - 校則を緩く考えて欲しい。地域との交流や国際交流ができる様な学校にして欲しい。
  - 環境問題など新しい科目を設定するなど、講座選択の幅を広げてほしい。その中で、学びたい科目が学べ、想像力や発信力に繋がられ、やりたいことを見つけられる学校になったらいい。

### <再編実施基本計画(案)について>

- ⇒資料に沿って、再編実施基本計画(案)を提案
- 学科名の表現はこれでよいのか。基本計画に進学重視型単位制と表記しなくてよいのか。学年制か単位制か。  
⇒全日制普通科区分の中で、新しい普通科として考えている。仮称であるので議論はこれからも続ける。  
単位制は記載しなければならないことではないが、進学重視型の説明をいただいているので基本的には載せていく方向で考えたい。  
⇒設定した単位をすべて取得しないと進級できない学年制ではない。しかし、卒業単位数さえ取得すれば良いという単位制とは異なる。進学に必要な単位を積極的に取得していくという想定をしているので「進学重視型単位制」という表現にしている。

### <今後のスケジュールについて>

⇒NSDプロジェクト、プロポーザルの考え方を、小諸新校を例に説明。赤松委員長のメッセージ動画視聴。

### <その他>

- 通学の利便性について、中込駅と佐久平駅からのスクールバスの実現について、前向きに検討していただき、次回までに考えを聞かせていただきたい。

## 佐久新校(仮称)再編実施基本計画

### 1 再編統合対象校

野沢北高等学校、野沢南高等学校

### 2 募集開始(開校)年度

令和11年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和11年度を新校の募集開始年度とする。

### 3 活用する校地・校舎

野沢北高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、敷地(校地)の広さと周辺の道路環境を考慮し、野沢北高校を新校の校地校舎として活用する。

### 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 学際領域に関する学科 8学級程度

定時制課程 普通科1学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

設置学科については、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化(高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正)により設置可能となった「新たな普通科」の1つである、学際領域に関する学科<sup>注</sup>を設置し、新たな学びに対応した単位制を導入する。佐久地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には8学級程度が想定される。

東信地域全体の配置状況を考慮し、定時制課程を設置する。

注) 現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。(学際=研究などが異なる分野にまたがって関わること)

### 5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域と大学、研究機関等と協働した探究を核とし、「夢のある未来社会を地域と共創する知の探究校」を構想する。

### 6 施設整備

新校の学びに必要な施設整備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6年程度を想定

# 夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校

## 目指す学校像

- 高い志の進路を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む
- 新時代を切り拓く「創造力」と「探究心」を育む
- 他者との協働により、多様な価値観を共有し、豊かな人間性を育む

## 学際領域に関する学科

### 確かな学力と教養を獲得する単位制

- 文理融合のリベラルアーツ的な学び
- 探究を核としたダイナミックな学び
- 大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び



1年次：必履修科目や多彩な校外学習等により探究の基礎・基本を習得

2～3年次：単位制の自由度を最大限活用して「自らの学びをデザイン」

### 理数科学選択群



### 人文科学選択群

- ◇ 選択群を中心に、個々の興味関心により主体的に科目選択
- ◇ 学校内外の自主的・創造的な活動による単位取得  
海外留学、資格取得、大学の講義を受講、地元企業との共同研究 など
- ◇ 多様な地域資源を活用したグローバルな探究活動
- ◇ 生徒の活動に伴走するアカデミックサポーター（OB・OG）との連携
- ☆ 医学部・デジタル系の大学や海外の大学への進学など、生徒が希望する多様な進路実現を目指す



佐久エリア共学共創コンソーシアム  
多様な人々と協働し、地域の未来社会を共創するコミュニティ



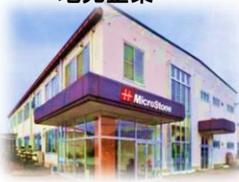
大学



医療機関



地元企業



自治体



研究機関



◆定時制課程 普通科（単位制）：3年間での卒業や全日制の授業を履修可能とする新システム◆

校内中心の検討事項

外部との連携を要する事項

施設整備関係

学びのイメージ検討  
(施設検討・検討事項の調整)

R5年度(1年目)

- ・校内体制、各種スケジュール準備・検討
- ・懇話会の開催(4回程度)
- ・広報開始(暫定HPの立ち上げ等)

小6(開校時高3)  
小5(開校時高2)  
小4(新校1期生)

R6年度(2年目)

- ・校名(仮称)決定(教育委員会定例会)

中1(開校時高3)  
小6(開校時高2)  
小5(新校1期生)

R7年度(3年目)

R9年度(5年目)

- ・懇話会の開催
- ・設置学科の相談⇒県教委
- ・正式パンフレットの作成

中2(新校1期生)  
中1(開校時中3)  
小6(開校時中2)

R10年度(6年目)

- ・懇話会の開催
- ・学科設置決定(教育委員会6月定例会)
- ・生徒募集定員決定(教育委員会11月定例会、設置条例改正(県議会11月定例会))
- ・12月目途に校内検討終了
- ・管理規則改正(教育委員会3月定例会)

R11年度 開校

学校目標・教育方針・教育課程の検討  
(施設検討・検討事項の調整)

校名選考検討

対外的説明\*決まったことから随時  
(中学校進路指導、市町村教委 等)

制服検討

校歌・校章検討

正式依頼  
(予算を伴うため、依頼時期に注意が必要)

制服決定

校歌・校章の正式依頼は遅くともR9年度当初

開校1年前までには作成

基本計画・設計

工事

長野県教育委員会

新校準備委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

⑪懇話会(R4.5.16)

選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

⑫懇話会(R4.8.18)

小諸新校校名募集要項(案)について意見交換 …資料1を決定

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月9日~10月8日

小諸新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票 …資料2を提示

⑬懇話会(R4.11.21)

公募結果の説明、校名案候補の一次選考 …資料3を提示

商標権調査及び有識者への相談

校名案候補 一次選考の整理

資料4・5

懇話会構成員による【二次】投票 …資料4を提示

⑭懇話会(R5.2.24)

校名案候補の決定(最終選考) …資料4・6・7を提示

商標権調査及び有識者への相談

再編対象校の校長から具申

R5年4月or5月

教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月(予定)

県議会11月定例会で正式決定

